

「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～こんなとき どうしたら、どう考えたらいいのでしょうか?①～

近くにいる人が・・・ため息をついたり、「しんどい」・「疲れた」・「めんどくさい」や不満などのネガティブワードが口癖のように多くて疲れるー!

こんなとき、どうしたら、どう考えたらいいのでしょうか?

この通心(信)でよく紹介している ひすい ことろう さんは・・・

『この人は・・・しんどがるのが・・・

愚痴を言うのが・・・『趣味なんだ!』と、気にしない。

だそうです。では、どうぞ



いい・悪いで考えると・・・悪人が生まれます。・・・そして、そこには『裁き』が生まれます。

そして、究極、『戦争』になります。

でも・・・『趣味』・『好み』だと思ったら・・・ただの『趣味のちがい』になります。

オーケストラが好きなのか、ロックやK-POPが好きなのか、演歌が好きなのか。

カレーは辛口が好きか、辛口が好きか、ソースをかけるのが好きか、しょうゆをかけるのが好きか・・・そのくらいの違いと認識しておけば、疲れませんし、ケンカにもなりません。

いい・悪いでジャッジせず、すべては「趣味のちがい」と考えてみてください。

「芸風のちがい」ととらえてもOK!(笑い)

すると・・・人に優しくなれます。

また、こんなふうにも考えることもできます。

「疲れた」「辛い」「めんどくさい」「嫌だ」「嫌い」「でも・・・」などのネガティブワードが口癖になっている人を小学1年生としましょう。「うれしい」「たのしい」「ありがとう」「ツイてる」などのポジティブワードが口癖になっている人を小学6年生とします。

1年生には1年生ならではの体験があるし、6年生には6年生の体験があります。

ネガティブワードが口癖の人たちは・・・今、そういう時期なのです。それがいつまでも続くわけではない。

また、あなたはあなたで、そういう人がいる中で影響を受けず、自分は明るく過ごせるのか。それが試される時期にいます。

「いまはそういう時期」・・・という見方をすることも覚えておいてくださいね。

ラブ&ピースは・・・いい・悪いとジャッジしないところから始まります。

他人を裁かない=自分を裁かない、ということです。内側を裁かなくなったとき、外側の世界から戦争はなくなっていることでしょう。

「1秒でこの世界が変わる70の答え」ひすい ことろう (ディスカバー21) より

たしかに、漫才師や講談師のなかには・・・社会や政治への愚痴や批判をネタにしたり、皮肉をネタに、私たちに『笑い』を提供してくれる芸人さんもいますよね。

時には・・・「今は・・・そういう時期なんだ。」「いつまでも続くわけではない。」「自分が試される時期にいるんだ。」

こんな考え方、受け入れ方をしてもいいのかもしれないね。

